



りんご特報 No.1

令和7年3月3日
JA中野市営農センター
JA中野市りんご・もも部会

本年の発芽は平年並みの予想です。園地内をよく確認して薬剤散布の準備は早めに行ってください。
第1回目の防除に向けて、剪定作業・SS 走行路の確保・SS の試運転等を進めて下さい。
(調査地区：平岡)

ふじ	平年	R7 (予想)	R6	R5	R4	R3
発芽日	3/31	3/31 頃	4/2	3/23	4/5	3/29



【休眠期（発芽前）の散布】

薬剤散布時は、温暖・無風の日を選び幹や枝に十分にかかるように散布しましょう。

※散布は以下の2体系のどちらかを選択してください。

散布時期	発芽前（3月中旬～）	散布日 _____月 日（ ）
	<p>① 石灰硫黄合剤体系（発芽前）</p> <p>水 88ℓ 当たり</p> <p>スプレーオイル 2ℓ（発芽前、-）</p> <p>石灰硫黄合剤 10ℓ（休眠期、-）</p>	散布量 _____ℓ
散布薬剤	<p>※①か②のどちらかを選択してください</p> <p>② トップジン体系（発芽前～発芽後7日以内）</p> <p>水 98ℓ 当たり</p> <p>スプレーオイル 2ℓ（発芽前、-）</p> <p>トップジンM水和剤 100g（前日、6回）</p>	
	対象病害虫	腐らん病・ハダニ類・カイガラムシ類
散布量	10a 当たり：300ℓ	
注意事項	①【農家在庫のみ】トップジンM水和剤に代えて、 劇 ベフラン液剤25の1,000倍（休眠期、6回*但し開花期以降3回以内）でもよい。	

裏面もご覧ください

次回発行予定
3月17日

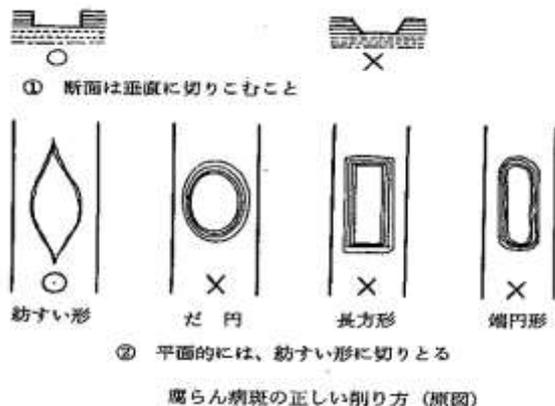
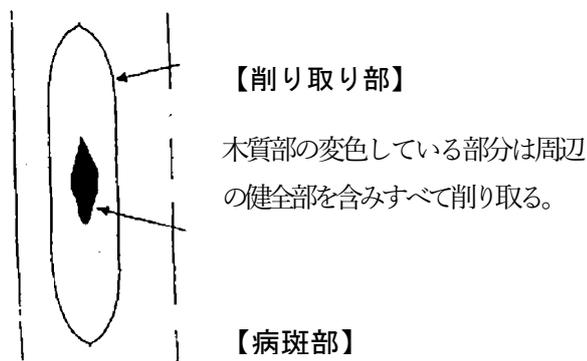
春の重点管理作業（腐らん病対策・粗皮削り・凍害対策）

1、 腐らん病対策

6月に入ると病斑進展が最大となるとともに孢子飛散が始まり、せん定等の傷口からの感染が増大します。つきましては見つけ次第、切除・削り取り等を行い物理的防除に努めてください。

- ①各自園地点検を実施し早期発見に努める。（幹・枝部だけでなく、果台部にも見受けられる）
- ②病患部を見つけ次第切除または削り処理等を行う。
- ③削り取った病患部や、り病枝は焼却する。削り取った後、傷口に塗布剤（トップジンMペースト）を塗る。 *腐らんシートを巻く。

削り取り方法



～ 具体的な方法 ～ *必ずお読みください。

- ① 幹や枝の伸びる方向に口がつかまるように紡錘形に切り取る。
- ② 切り口部は木質部が垂直になるようにする。
- ③ 表面の腐敗部だけでなく形成層の変色及びその周辺の健全部も削り取る。
- ④ 削り取った後は保護のためにトップジンMペーストなど塗布する。
- ⑤ 泥巻きをする場合は、病斑部だけでなく上下に長く巻き、乾かないようにビニール等で密封する。

2、 粗皮削り（ハダニ類・カイガラムシ類・輪紋病対策）

リンゴハダニ、カイガラムシ類は粗皮下等に越冬しています。休眠期防除前に粗皮削りを行い薬剤が直接かかるようにしてください。また、カイガラムシ類の寄生が多い園では、散布前に金ブラシ等で削り落す作業を行ってください。輪紋病(いぼ皮病)の罹病樹(枝)も多々散見されます。「いぼ皮」を見つけたら、必ず粗皮削りを行い、輪紋病の発生源撲滅に努めてください。

3、 凍害対策

- ①稲わら等の資材を樹幹に巻きつけている場合は、除去を遅らせる。*4月下旬頃まで薬剤散布が樹幹にかかりにくい状況になるため、わい化樹や5年生未満の若木のみ除去を遅らせる。
- ②排水性の悪い園地では、暗きよや・明きよ等によって排水対策に努める。また、新たに苗木を定植する場合は浅植えに努める。
- ③風当たりの強い園地では、防風ネット等で緩和に努める。